

宇陀を駆けた人々

「伊能忠敬」
いのうただたか

3

悠久の歴史を刻んできた宇陀。古代から現代まで多くの人々が宇陀を駆けぬけてきました。神話や伝説の世界の人々、実在の人々、宇陀の歴史に欠くことのできない人々をご紹介します。

髭無村の☆印

のちに完成した地図（『大日本沿海輿地全図』）には、道や集落が正確に描かれています。宇陀が描かれたところを見ると、「吉隠村、西峠村、萩原村、福知村、赤世村、額井村、飼葉村、長峯村、山邊西村、山邊村、緑川村、白坂村、大野上村、大野村、髭無村、長瀬上村、長瀬中村、長瀬村」などの村名と集落が記載されています。地図や測量日記から忠敬ら一行は、初瀬から萩原を経て、青越え道を東へと進み、名張へと向かったことがわかります。

忠敬ら一行が泊まったという「髭無村」では、天文観測を行っており、地図には☆印が付けられています。忠敬らが歩いた道は、正確に描かれており、旧道の青越え道（伊勢表街道）をたどってみると、一行が泊まった髭無村は、現在の三本松（元三）とい



髭無村の天体観測地（推定）

うことがわかります。また、天体観測を行った場所も推定することができ、忠敬の測量精度の高さには、驚くばかりです。なお、「三本松」の地名の由来は、幹が3本に分かれた老松にちなんでおり、明治8年から村名に使用され、現在は大字名に受け継がれています。

忠敬の功績は、非常に大きく、平成22年（2010）、忠敬が作った地図や測量に使用した器具、関係文書など、2345点が、「我が国の測量史・地図史上における極めて高い学術的価値を有する」として、「伊能忠敬関係資料」という名称で

国宝に指定されています。これらは、伊能家に伝わったもので、千葉県香取市の伊能忠敬記念館に保管されています。



文・柳澤一宏（文化財課）



男女共同参画社会の

実現を目指して

皆さんは「男女共同参画」という言葉を聞いたことがありますか？

男女共同参画とは、私たちがいただく「女らしさ・男らしさ」のイメージや性別にとらわれず、「女性“も”男性“も”性的マイノリティー“の人も対等な関係でお互いの違いを認め合い、思いやりながら、誰もが自分らしく生きることができ、自らの意思で社会のあらゆる分野に参画ができる、という考え方です。

人権教育の推進により、「男女共同参画」に対する意識は高まっていますが、その一方でいまだに「固定的性別役割分担意識」は根強く残っているように感じます。

宇陀市ではこの度、「宇陀市男女共同参画計画（第2次）」を策定し、男女がともに輝く未来づくりを目指しています。「計画」の概要は8ページをご覧ください。

宇陀市男女共同参画計画の見直しに向けて行ったアンケート

結果をみると「男は仕事・女は家庭」という考え方は減少傾向にあります。

「重要な決定の場では女性より男性の声が通りやすい」と思う人が多かったです。次に「男性が育児休業、介護休業を取得した方がよい」と考える人が男女ともに多い反面、職場での男性の育児休業、介護休業はまだまだ取得しにくいというのが現状です。また、DVを受けたことがある女性は男性より多く、依然として女性が被害者になることが多くなっています。

これらの課題が少しでもなくなっていくように、一人ひとりの意識改革が必要ではないでしょうか。皆さんも、男女共同参画社会実現のため、ともに考えてみませんか？

少しい意識改革が将来大きな変革をもたらすことです。しょう。

